

## 定時総会イベント・講演会概要録

■日時 平成 29 年 6 月 19 日(月)午後 4 時

■会場 前橋マーキュリーホテル

■テーマ なぜ地域間のセクト意識が生まれたか？  
—群馬及び県央地域の  
「市・町・村」名前の成り立ちから—

■講師 高崎史志の会・理事 よしまさ 堤 克政 氏



略歴：1943 年生まれ。高崎高校から慶應義塾大学法学部法律学科卒業後、群馬銀行に入社。1999 年退職、同行健康保険組合常務理事に就任。2007 年退任。高祖父堤新五左衛門順美が高崎藩松平(大河内)家の家老、同家目附の曾祖父金之丞克寛が下仁田戦役で戦死の因縁から、亡父の後を受け頼政神社氏子総代、大信寺檀家総代、下仁田戦役戦没者遺族会代表。高崎の歴史を語り継ぐ活動を続け、高崎史志の会の理事を務めている。

### (講演概要)

#### 1 はじめに

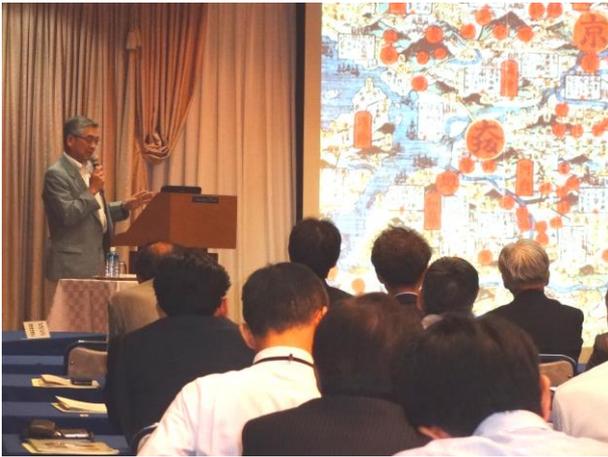
ご紹介をいただきました堤と申します。今日のタイトルは、ちょっと荷が重いです。私は、あまりセクト意識はありませんで、学生時代はノンポリでしたし、高崎のことを何か言われるとちょっと頭にくることはありますが…。何でこういう話をするかと言いますと、私たちが今やっている高崎史志の会は、高崎に歴史の博物館、あるいは資料館をつくりたいというのが最終目的で、それには勉強しなきゃいけないし、周りの人に啓蒙しなきゃいけないということで活動しております。

それを進めている中で、群馬県には何で、高崎だけじゃなく、前橋でさえも、ちゃんとした資料館がないのか。その理由は何だろうか。残念ながら、今日お集まりの皆さんのところには文化がない。当然歴史はあるけれど、重たい歴史がなく、文化もない。だからつからないのかという感じがするんですね。だけど、実際はどここのまちにも文化があって、歴史がある。それを自分たちが意識して、自分たちの後継者にちゃんと伝えていく施設がないというのは、残念ながら全国的なレベルでみても下卑のほうです。煎じ詰めれば、そういうところが、今日、何でこういうことを話すかという原点です。それは日本が安定期に入った江戸時代に、まず理由があります。

#### 2 江戸時代の支配状況

たまたま私のうちは 1630 年頃から家系図と墓石があるので、そこからは生きていたと思うんですが、それより前がわかるうちって、ほとんど嘘です。徳川家も嘘ですし、天皇家がまあ、飛鳥時代ぐらいまで。それより前、あれはたぶん嘘です。基本的にあり得ない。この辺の著名なお宅も、十数代続いていけば、これは立派なうちですね。なぜかといったら、昔は一家を構えて住まなかった。普通のうちは、江戸時代になって初めて親子と一緒に住むようになったんです。

その原因は、徳川幕府が支配するために、全部戸籍台帳をつくらせた。それで、大きく分けると、幕府が



管轄しているところと、幕府から宛行われたところとができた。それで、宛行われたところは大名領と旗本領。大名領も二通りあって、お城を持っているところと、持っていないところ。群馬県の場合は、前橋、高崎、館林、安中、沼田はお城がある城下町。それ以外は伊勢崎とか、小幡とか、七日市とかは陣屋が支配所になっている城下町、そういうふうに分かれます。

なおかつ、そこの周りに領地を持っているところと、とんでもなく遠いところとを持っているところとに分かれます。大方の方は、藩というのは例えば前橋藩なら前

橋、今の県庁の周りにずっと領地を持っているとお思いでしょうが現実には違う。とんでもなく遠いところに持っているわけです。後で説明しますが、前橋がその典型中の典型。分散の典型です。高崎は3カ所だけなんです。それ以外に寺社領というのがありまして、ほとんど寺が多いですけれども、そういうふうに分かれていました。

なおかつ昔の納税、いわゆる年貢は今、皆さんは個人個人で納めますよね。昔は村単位、村で納めるんですけど、一つの村に1人の納付先があるわけじゃないです。一番酷いのは、今は館林に合併している大島というところがありますが、そこは29人殿様がいたんです。これでは住んでいる人にとって、誰が殿様だかわからないですよ。まあ、名主さんだけが知っていると思うんですが、そういうのを相給と言います。一つの村に納める先が何先もある。で、この仕組みが、これからお話しする、行政局がバラバラになった原因なんです。

赤く書いたところ(表1「国別・県別の藩数と最大藩」参照)、これは名だたる大名ですが、一番でかいのは前田さんですね、103万石。で、前田さんの本拠地は金沢。当然一人で治めて、ドーンとどでかくやっています。薩摩の島津とか、みんな大きいところは、その後、その中心地の都市がそのまま大きくなります。一部赤くなっていないのは、譜代という徳川の家来とか、徳川の親戚、そういうところが治めていた大きい藩、20万石以上のところを書いておきましたけれども、白紙のところ、書いてないところは大きい殿様がいなかったんですね。当然、関東地方はほとんどいない。これがね、バラバラになった最大の原因だと私は思います。

今のところでいう、どれだけ人口がその後、現在集中してきたかという(表2「城下町の各県における人口集中度」参照)、その当時から大きかったおかげで、まちはみんな大きいですよ。人口的に大きい。で、人口がたぶん、経済界の皆さん方からすると、指標の中心になると思うので、それで赤いところはさっきの外様なんですけど、八戸みたいな小っちゃいところを除いて、みんな左側に集中していますよね。これが、その県のどのぐらい集中しているかという、高知県の高知市は約34万人ですけど、47%が高知市に集中している。ところが右側は、参考に書いたんですけど、計というところが上の2つを足して計なので、みんな小さいでしょう。後で市が2つになっている理由はお話ししますが、そういうことで、もう江戸時代から続いたのが、今日まで影響しちゃっているんです。

ただし、ここに書いてない中で、江戸時代はすごかったのに、現在は、人口が減少し規模の小さなところが、萩とかね、いわゆる長州藩。長州藩は、天下を動かしたわけなんですけど、自分の地元は田舎にしちゃって、全然駄目ですね。薩長土肥っていいですけど、その中に入れなかった口ですね。例えば九州地方の、これが江戸時代の図面(「図1」参照)ですけど、九州は、ほとんど黒田と、鍋島と、細川と、島津で、ドバ

ーンってあれだけでっかいところを治めちゃっている。幾つか書いてあるんですけど、それらは小さい藩です。ところが、近畿地方と関東地方は、もう数えるのが嫌になってくるぐらい藩がいっぱいある。だから、集中しなかったために、残念ながら金沢だとか、福岡とかの文化に勝てない。

### 3 上州の領主状況

群馬県は、領地のうちの、石高で計算するしか方法がないわけですが、41%を幕府が持っていた。幕府がそれをまとまって持っているのならともかく、バラバラに分かれて持っているんですよ。そして、群馬県に本拠地を持つ藩が9つありましたけど、そこが44%持っています。で、群馬県以外に本拠地がある藩が持っているのは4%です。そういう仕組みをご存じでしたか。

磐城泉、山城淀、武蔵岩槻、武蔵半原、下野佐野、出羽松嶺。房総半島の上総一宮、上総請西。三河の西端、丹波峰山、こういう藩が群馬県に千石とか、ちょこちょこっと持っている。その住民は、殿様がどの人だかわからないでしょう。大体殿様は来ない、家来も来ないです。全部、地元の名主さんに任せている。その程度の領地があるから、自分のところは誰が治めているんだろうって多分わからない。

それ以外に、旗本領地が12%ある。で、この旗本の領地というのがピンキリで、百石ぐらいからある。全部まとめると5千石の旗本はいますが、群馬県に持っている領地は、千石持っている人はいなかったかな。だから、そのぐらいまばらなんです。

そういう状態が群馬県であったので、当然、安定する文化が発達するということはないですよ。贅沢する人もいなければ、贅沢する藩もない。金沢みたいに贅沢する藩は文化が発達する。残念ながら質実剛健、儉約しているところには文化が発達しないです。やっぱり裕福じゃないと。

群馬県を見て、どこが酷いかって言うと、東のほうが酷い。山田郡、新田郡、邑楽郡っていうのはもう、何だかわからないような支配状況です。群馬郡は大体、高崎と前橋で治めていますから、まだ集中しているんですけど、利根郡とか、吾妻郡というのは、もう沼田藩がある以外はみんな幕府領で、極端に言えば幕府は面倒を見ない。お米だけ上がればいいんですから。だから向こうは、田舎文化はあるけど都市文化はない。そういうふうになっちゃうのは、みんな江戸時代のせいです。それを、明治になって直せばよかったけど、なかなか直らなかった。

なおかつ、さっき言った相給、一つの村に殿様が何人もいるっていうのは、やっぱり東のほうが多い。幕府とか旗本の領地だったので、大体1人1村というところもありますから、平均すると1ちょっとでいいわけだけど、2とか3というところがあるんですね。だから、向こうは本当に大きい都市が発展しない。俺が、俺がというところは、まとまりにくい。多分そういうことはあるんじゃないかと思いますね。

もう一つ悪い理由は、殿様は途中で入れ替えがあります。大名の異動を転封とか言いますが、それが当たり前で、特に高崎と館林、これは結構動いていますね。だけど、幸か不幸か、まあ幸なんですけど、高崎の場合は前半だけだった。で、中期から安定したので、高崎市は比較的よかった。館林は、前半は安定していたけど、後半は年中動いている。しかも、悪いことをしてきた大名がいっぱいいますから、あそこは本当に大変だったんですよ。

### 4 中心藩が現れなかった大きな原因

群馬県に大きい都市ができなかったのは、大きい藩がいなかったからですが、一番最初の原因は館林藩。館林は日本で有数の藩になりそうだったんですよ。尾張、紀伊、水戸、御三家というのは徳川の子もさんたちが独立した藩ですが、名古屋方面と和歌山、そして茨城に大きい石数をもった藩がいたんです

ね。そして館林にこれに匹敵しそうなのが出てきた。徳川綱吉という、その後、五代将軍になるんですが、一時、この人は25万石までいった。で、この人はどういう人かという、三代将軍家光の子どもです。だけどお兄さんたちがいたので将軍にはなれない。そういうわけで、「おまえ、それじゃあ館林へ行け」ということで、館林に行って25万石、水戸の35万石は後からなので、一時期だと5万石ぐらいしか差がなかったんです。だから、綱吉さんがその後そのままいたら、また加増されて、もっと大きい藩になったかもしれない。



ところが、四代将軍の家綱という人が死んじゃいます。その後を綱吉のお兄さんが継げばいいんだけど、家綱の死ぬ前に兄の綱豊さんという人が死んでしまう。それで綱吉が五代将軍になるんです。将軍になると江戸に行っちゃいますね。だけど、子どもさんがいたので、4歳ぐらいですけど、子どもさんが跡を取って館林藩主になるんです。ただ、この人はまた幼くして死んじゃうんですよ。そうすると、跡取りがないから館林藩は解体。その後はどうなったかという、みんな、幕府領か旗本領になるんです。それで、この辺り

は相給っていうところが多い。で、これ全部、館林藩になってもいいものを分解しちゃったんですね。そうすると当然、まとまった殿様がいないから、お金も使わないし、文化も発達しないんじゃないかと思います。だから、歴史にもしはないけれども、もし館林にそのままいけば、群馬県の中心は、もしかすると前橋じゃなくて、館林だったかもしれないということです。

その後、前橋が大きくなるんです。高崎に井伊さんという人が来たときに高崎は12万石ですが、前橋は3万3千石ですから、えらい差がありました。それから、井伊さんがいなくなった後は5万石だったんですが、前橋は、二代の忠世という方が、だんだん、だんだんと力を付けて、あっという間に12万2千石になった。三代将軍の中頃ぐらいまで、徳川幕府のリーダーでした。

だけど、とんとん拍子で偉くなっていったので、前橋の周りに領地がなかった。なぜかという、この忠世という方は、前橋のお父さんの後を継ぐ前にもう、城を持ってないのに大名格の5万石ぐらいになっていた。埼玉県とか、神奈川県とか、あっちこっちに領地を持っていたんです。それはさっき言った飛び地で、それを背負ったまま前橋に来ちゃった。で、なおかつ前橋の殿様になってから、どんどん、どんどん出世して行って石高が増えていったときに、前橋の周りに領地がもらえればよかったのに、たとえ群馬県でもらえるとしても館林のほうのさっきの空いているところとか、えらい遠くにもらった。だから、みんな飛び地っていうふうになっちゃったんです。

その次の人は早く殿様に就いたんですけど、三代さんはすぐ亡くなっちゃった。四代の忠清さんっていうのが、いわゆる前橋で、下馬将軍っていうお菓子で有名な方です。もう、飛ぶ鳥を落とす勢いの。何で下馬将軍と言ったかっていうと、江戸城の下馬口っていうところに酒井家のお屋敷があった。今も跡地がありますけど、そここのところで誰もが下馬する、将軍みたいにすごい権威があるというので、下馬将軍と言うんです。この方は15万石になります。なおさら領地が、そんなことがあるのかって思うようなところまで分散してしまいます。

それで、その後の人は、忠清っていう人があまりに権勢をふるったので、やっかまれて、お子さんたちはみんな、「あのおやじの子か。あのおじいさんの子か」と、こういうのでみんな、出る杭じゃないけど、本人は出てないのに頭を叩かれちゃうんですね。で、あまり音沙汰がなかったんですが、その間、代々の方は、

「まとまってない領地は嫌だ」ということで、前橋市史なんかを読むといつも言っていたらしいですね。

ところが、この九代の忠恭さんという人は分家から殿様に来た。若狭の酒井家っていう分家があるんですが、そこから来て、いろいろに明るい。大体殿様の子で育って殿様になった人って、あまりいいのがない。世間を知りません。分家から来ると、そこでもまれてくるから世事に明るいんですね。それで何とかしなきゃいけない。そうじゃないと、本家の家老たちにバカにされちゃうから。悪くすると押し込め、「おまえは出てこなくていい」なんてやられるんですよ。世の中、殿様の言うとおりに全部、動いているわけじゃないです。口幅ったいですけど、うちのような家老だとか、そういう連中が大体仕切っていますから、「今度来た殿様は駄目だ」っていうと、屋敷牢っていうのがあって、そこへ押し込められちゃう危険性がありますから、こういう人は一生懸命やったんです。

で、この人が結果として、兵庫県の姫路へ転勤します。その表向きの理由、これは前橋市史なんかにも伝わっているでしょうけど、「お城が利根川に落ちこちそうで危ないから嫌だ」と。これは2番目の理由なんですね。しかも、それは嫌だというより、酒井家という徳川幕府の中の名門中の名門ですから、プライドがあるので、「お城がないところの殿様なんて」というのがあるんでしょうね。それもあったわけですが、1番の理由は、「治めている土地が分散しているので嫌だ」と。そうすると、家来が領地を調べに行くのに、人の地にみんな、仁義を切って行かなきゃいけない。前橋から出て、ずっと50号のほうへ行くと、もう野中とか、あの辺を通り過ぎると、もう人の地になっちゃう。そうすると、出かける前に連絡するんです。「今度、通りますからよろしく願います」って。館林の方にも領地があって、その辺ならまだ馬で行くからいいですけど、千葉県だとか、茨城県だとか、大阪だとか、滋賀県だとかいっぱい離れているんですよ。それを全部、毎回手紙を出して、願いますっていうのは部下とすれば嫌でしょう。それで、殿様に「俺はもうこんなところは嫌だ、嫌だ」って言ったんでしょうね。そうすると、殿様も幕府に「ぜひ替えてくれ」と一生懸命言ったら、ちょうど姫路の殿様が若造で、「これは駄目だ。若造じゃ姫路を治められない」と。じゃあ前橋ならいいのかって、こういうふうになりますよね。だけど、前橋より姫路のほうが戦略的には重要です。なぜかって言うと、姫路は、隣の岡山県から向こうは全部外様で、あそこがもう防波堤ですから、姫路の大名は大体、名門のこれはっていう人が行っているんです。

姫路城へ行ったことはありますよね。あそこへ行って、瓦を見てごらんささい。全部殿様の瓦、立ち葵、本多家ですね。蝶々、池田家。ここの家は、片喰に剣菱。そういうのがジャラジャラと並んでいますよ。あそこはもう有名な殿様が全部治めていたんですが、酒井家もその1人になった。で、その前に治めていた人が、どんな因果か、巡り巡って最後に前橋に来た。今、前橋にお住まいの松平さんですね。

そのときの殿様、10歳ぐらいの若造だったんですね。治められないから、「おまえ、出ていけ」って。で、タイミングよく、そのとき酒井忠恭が老中だったんですね。一番偉い老中だった。それで、「俺は老中を引き下がるから、あそこに異動させてくれ」と。内閣総理大臣のままいると、今もめているように、忝意が働いたんじゃないかと言われるから、そういうことがないように、いったん引き下がって、それで行きます。

私に言わせれば、酒井さんがいてくれれば、前橋はちよつと違っていたんじゃないかと思います。だって引越したって、自分ちのお墓、全部、龍海院にあるんだから。前橋に愛着があったんだと思うんですよ。前橋に来て、これを言うのは嫌なんだけどね。酒井家の家来がいっぱいいいて、あの野郎と思われるから。だけど、これは事実ですからね。

次に来た殿様は名門の結城松平家といって、徳川家康の次男坊結城秀康から分かれた大名の1人なんですよ。長男は松平信康という、信長に難癖をつけられて死んだ人。その次に、秀吉の養子に行って、そのために跡が継げなくて、3番目が二代将軍の秀忠です。その次男さんの子どもさん、5人ぐらい大名がい

るんですけど、そのうちのお1人です。

で、異名を持ってまして、引越大名というんです。どうしてかって言ったら、ずうっと転勤ですから、もう大変です。二代さんは山形、姫路、村上、姫路、大分県日田、山形と、5回移ったんです。そうしたら当然ですが、皆さん方も会社勤めで転勤させられた人がいるかもしれないですけど、転勤するとまず家財が痛みますね。会社から引越手当てが出てても足りないから、本当に不運ですよ。まあ、給料が増えていくならいいんですけどね。一番酷かったのは、大分県の日田というところに行って、そこから山形へ戻る。どうですか。今の会社だって、こんなのはないでしょう。それでその人が来た。だから、言っちゃ悪いけど、凄く貧乏。給料は多いんですよ。来たときは15万石ですから、給料は多いんだけど、借財がいっぱいあるんですよ。だけど、おそらくね、全部行ったところで踏み倒してきていると思いますよ。大名はみんな踏み倒しますから。

## 5 群馬県中部の領地模様

それでも、酒井さんの次に、結城松平家という名門が前橋に来たんだから、前橋はやっぱり群馬県でナンバーワンでいられたと思うんですが、本当にお城が落っこっちゃって、嫌だって言うんで、川越へ行っちゃうんです。それで、前橋は飛び地になっちゃうんです。それまでは城主がいる藩なんですけど、城主が川越に行っちゃったので、前橋とか、この周りが全部、飛び地扱いになった。だからその間、前橋には陣屋があっただけです。それが98年間。約100年間、城主が留守でした。その間に前橋は本当にまちがもう、ワーンと下落した。消費者がいない、侍という大消費者がいなくなるから、みんなそれで商売している人はいなくなった。それが後で話す、こういう大変なことがあったから、県庁を呼ぼうというエネルギーに変わるんだと思いますよ。

この後に前橋の財界人が一生懸命で、「屋敷もつくるからきてください」って言ったら、「じゃあわかりました、幕府に言います」って、それでその殿様が戻ってきてくれました。当然、川越は違う殿様が、同じ松平でも、違う殿様になるんですが、で、なおかつ、17万石で、2万石増える。この時期に、幕末にですよ。この時期に2万石増えるっていうのは、幕府も、もう容易じゃないんですが、何で増えたかと言えば、ぐずったからなんです。

それは松平さんを山形の鶴岡へ、鶴岡の酒井さんを新潟県の長岡へ、長岡の牧野さんを川越へ移す。こういう三角トレードを幕府が計画したんです。長岡も反対しました。「神君家康以来、ずっとここにいるのに、なんで動かすんだ」と。鶴岡も、初めて鶴岡藩というのができてから、ずっと酒井さんですから、なんで動かすんだと農民が騒いでいる。それでご破算になるんです。それで幕府は「悪かった。じゃあ前橋へ行ってください」というので、2万石加増なんですよ。全くの恣意ですね。

で、このとき2万石増やした箇所が、ええっ、こんなところをという、とんでもないところでした。こういうことがなければ、私が思うに前橋は凄かった。

今言った松平さんが最後に来たので、前橋藩領になったところっていうのを説明しますと、この地図は、**「江戸時代の小判図」**(参照)と言って、小判みたいになっているのがみんな領地の村です。で、単独の色で塗ってあるところが1人の殿様。半分から切って2種類の色、例えば木部っていう高崎市の一部なんですけど、ここは上が水色ですから、幕府領。下が黄色ですから、木部は高崎ですね。そういう、相給っていうところですよ。で、黄色のところが高崎藩、ピンク色のところが前橋藩、緑色が伊勢崎藩、紫色が旗本、水色が幕府、斜線を引いてあるのが群馬県のその他の藩。茶色のところが群馬県に本拠地がない県外の藩。そうすると、今日のお集まりの話題の真ん中、群馬県央は、いろいろが混ざっているんです。特に玉村が幕府も、高崎も、前橋も、旗本も、ごちゃごちゃになってる。藤岡は比較的、旗本ですけど、旗本ならいいっていうわ

けじゃないんですね。旗本1人じゃない、これが何人もで治めているから大変なんです。

現在合併した前橋の大胡だとか、粕川、それから宮城村、あっち側の勢多郡は、とんでもない遠くの藩が持っていたんですね。で、佐波郡っていうのは、昔、佐位郡と那波郡と分かれていまして、それが合併して佐波郡になるんですけど、主に向こう側、境のほうは、小判と小判の間が空いていますけど、決して村がないんじゃないくて、比較的村の面積が大きかったというだけで、あの辺もいろいろ入り組んでいますよね。それでなんと、前橋藩が2万石増えたところ、ここに国定っていうのがある、国定忠治の国定。国定村っていうのは昔は幕府だったんです。この辺の赤いところがみんな2万石増えたときに、前橋の管轄圏になるんです。前橋の管轄圏になるっていうことは、これだけ離れていても、前橋の侍が裁判をするんですよ。あるいは捕まえに行くんです。人のところを歩いていかなきゃいけない。すると、周りは、違う人の警察権ですから。だからやくざがはびこるんです。

群馬県はやくざが多い、千葉県はやくざが多いっていうのは、今じゃないですよ。昔は、こういう状態なんです。境っていうのは、非常に現金収入がいっぱいあって、なおかつそこからちょっと南に下ると、平塚っていう大きい河岸があって、経済的に非常にいい場所だったらしいですね。だから現金収入がある。米農家のところでは、やくざははびこらないんですよ。収入が1年に一遍しか入らない、売上がないでしょう。だけど、郭だとか、海鮮問屋さんとか、そういうところはしょっちゅう現金収入があるわけですね。そこを狙うんですね。そこを縄張りにする。

玉村は、何で凄いやくざがいたかって言うと、高崎、前橋、伊勢崎の商家の大だんなさんが遊びにくるところなんですよ。高崎には女郎屋がない、つくっちゃいけないですから。前橋もたぶん、藩がいたときは駄目でしょうね。その100年間の間はどうか私も知りませんが、お寺が支配しているところだとか、侍が支配しているところは女郎屋がない。したがって、玉村は非常に繁栄したんです。玉村、木崎、それから栃木県へ行って八木節のふるさとの八木。何でか。太田じゃあそういうことをしちゃいけない。だけど、手前の木崎だとか、向こう側の八木は繁華街なんですよ。だから、高崎のだんな衆は、玉村に行くか、板鼻に行く。非常に繁栄していたんですが、もめごとが起きても取り締まる人がいないから、平気なんですよ。だからあの辺は治安が悪い。その原因は、いろいろな支配者が入り組んでいたからということなんです。で、そのままじゃなく、それが変なふうには明治に続いていくわけです。今は群馬県警がしっかりしていると思いますから、そういうことはないと思いますけど…。

## 6 幻の高崎県と県庁前橋へ

明治になると、まず群馬県は9つある藩のうち、館林藩は栃木県になりますから、それ以外は高崎県になるんです。しかし、後で説明しますが、たった4日後に第一次群馬県ってなって、県庁は高崎だったんです。その翌年、半年たったら、今度、県庁は前橋に持っていくということになった。で、ああだこうだ言っているうちに、今度は埼玉県の北側のほうと群馬県が一緒くたになったので、県庁は熊谷に行って、前橋と川越に支所ができた。だけど、熊谷県庁は、前橋に行くのが嫌っていうので、上野の国の支所を高崎にした。こういう一連の動きがあって、その間に、問題の楫取素彦が来るんですよ。この人が来て、第二次群馬県というのが成立して、また県庁が高崎になるんです。なんで高崎かっていうと、まだこのころは、前橋は復活してなかったんです。さっき言ったように、98年間殿様がいないくて、まちがさびれていましたから。高崎は中山道の要衝の地なので、高崎でいいんじゃないかということで。あともう一つ、表には出てない理由では、高崎がナンバーワンじゃなくて、ナンバーツーだったわけです。ナンバーワンに薩長連中はやりたくなかった。それで高崎になるんですね。

ところがですね、その前に、なんであの4日間で高崎県が群馬県になったかというね、全く汚いんですよ。これはちゃんと国立公文書館にこう、もちろん筆で書いてあります。高崎って書いてあるのを消して群馬ってなっているんです。吉田さんって、あまり皆さん知らないかもしれないんですけど、井上薫、後の外務大臣をやったりした。大久保利通はよく知っているでしょう。この人たちが、本当はこの高崎、沼田、安中、伊勢崎、小幡、前橋、七日市、岩鼻県っていうのは群馬県の幕府領全部で、とんでもないところは全部岩鼻県なんですけど、それを高崎県にするっていう書類を明治4年10月24日につくったんです。だから、そのときは高崎県になっていた。

それが4日後、「立県の議につき、過日お伺い候、高崎県の議、しかじかの情実もこれあり候」。しかじかと言うんですね。だから高崎が悪いとも言わない。いろいろな事情があるので、やめたいと。27日に紙を出して、28日に決まっちゃった。そうじゃなければ、高崎県、県庁所在地高崎市。全国の地図に出てきて、県名と県庁所在地が一緒っていうのが一番いいんですけど、こうなったかもしれない。だけど、たった4日なので、高崎の歴史書には「幻の高崎県」と書いてありますけど、4日なんです。これ、何だか本当はずっとわからなかった。で、高崎の先生方が調べに行くと、これが見つかったんですが、それで、その後今度は名前が群馬県にさせられた。

だけど、県庁も高崎から前橋にしますということになったんですよ。それは何でかという、高崎に庁舎になるような建物が少なかった。それはどうしてかという、一番いいはずのお城の跡が、軍隊が来ちゃった。それなので、場所がないからっていうので、そのころは税務台帳の整理とか非常に大変な時代で、一時的に前橋に行く。で、「いや、そんなこと言わないで」と言ったら、県令、楫取素彦が、「前橋には一時的に移すので、地租改正の作業が終われば高崎に県庁を新築して戻ります」と、「自分が在任中は前橋が本庁になることはない」って、言わなきゃいいことを言っちゃった。今の国会がもめているように、言わなきゃいい。これはみんな覚えていますから、言うからこういうことになるんです。

それで、ずっとたっていたら、高崎に相談しないうちに、明治14年2月16日に太政官布告というのがバーンと出てきちゃう。太政官布告が出てくると、県令が何を言おうが駄目なんです。その後は逃げの一手。知らない、知らない。約束したことはない。それからもう、本人は会わないで部下が会う。なんで、もうらちがあかなくなって、高崎の住民は県庁に押し掛けたんですね。弁当持ちで、てくてく、てくてくと前橋街道を歩いて行ったわけです。

世間では前橋と高崎は仲が悪いっていうけど、そんなことはないんですよ。そのとき、前橋の人が、ちゃんとお弁当がない人にはみんな、炊き出しをしてくれたんですから。とにかく、今みたいに、すぐ1時間で行って帰ってくるんじゃないですから。てくてく11キロ、歩いて来るんですからね。で、前橋の住民は、何が起きているかわからなかったのかもしれないけど、非常に親切にしてくれたと文献に書いてあります。で、いろいろやったんだけど、この騒ぎは代表者が3人とか4人で訴えに来たんじゃなくて、もう組織をつくって行ったので、ちゃんと整然と行ったんだけど、大人数で訴えに来て、誰が代表かわからない。そういう連中にちゃんと回答はできないっていうので、代表資格問題で、もう蹴られちゃうんです。で、高崎はまた、人がいいというか、諦めちゃうんです。

で、私が思うには、一番は、県庁がいなくなってもいいかなというふうに出発の商人は思っていたんじゃないかな。県庁の凄さっていうのがどの程度かっていうのは、わからなかったと思います。なおかつ、薩長に反発している地域ですから、別にどうでもいいやというのがあったんだと思う。なぜかという、訴えにいった人のメンバーの中に、これはという人がいない。前橋は当時、下村善太郎さんがいましたからね。そういう人がいなくて、どっちかという、その後、自由民権運動をやったような猛者が行ったので、嫌なふうに使われ

たんだらうね。「あいつら、本当に騒ぎを起こすやつらだ」というふうには、高崎を代表する商人が来たとか、そういうイメージで取られなかったと思うんですよ。わからないんですけどね。名前から見るとね。

ところが前橋は、1回殿様がいなくて懲りていますから、一生懸命だった。特に下村さん、今のご当主と親父が仲いいので、いろいろ本をいただいたりしてお話を聞いたこともありますが、非常に熱心だった。この人が楫取さんに話して、楫取さんは渡りに船で。だって、この当時の明治政府はお金がないんだから。それにお金を出してくれる。衛生所もつくる、学校もつくる、職員の官舎もつくる、みんなやってくれるっていうんだから、こんないいことはないでしょうね。自分で金を出さないで、みんなやってくれるって言うんだから。それで、水面下で約束して。

高崎では下村さんに匹敵する、そういう政治力がある人はいなかったんでしょうね。凄く生糸で成功した茂木惣兵衛って方は、もう横浜に行っちゃったんですね。高崎に支店とかはつくりましたが、横浜で、もう世界相手にでかい商売をしていたんですね。

## 7 県都名が県名にならず

これは世の中にあまり言われてない話で、明治のジャーナリストで、宮武外骨っていう面白い名前の方がいるんですよ。本名なんです。その人が主張したのを、私がいろいろ地方史を調べて、ちょっと僕なりにアレンジしたんですが。現在、県庁名と県名が同じところが全国に半分ぐらいありますね。他方、群馬県をはじめとして、一緒じゃないところがありますね。で、県庁名と県庁所在地が一緒のところは大体、薩長、朝廷に味方したところですよ。薩摩・長州・広島・土佐・岡山・福岡藩。紀州藩っていうのは御三家なんですけど、なんでそうかっていうと、ここにいた人が、明治政府のいろいろな法律をつくった人なんです。それで、お役人さんたちはその人に頭が上がらないので、「いや、和歌山県は和歌山市でいいだろう」と、こういうふうになった。で、非常に特殊で明治4年に決まったまま、ずっときています。

次に、熊本、徳島、福井、鳥取、富山、佐賀。これみんな、外様の大大名のところですが、当然すんなりと、現在も県庁所在地がその名前ですから、いつなったかという、明治4年じゃないんですね。ずっと後なんです。話せば長いので、ちょっと今日はやめておきますが、これもすったもんだ、すったもんだしている。

その代表が佐賀県。薩長土肥っていうでしょう。佐賀っていうのは肥前ですから、薩長土肥の一つなんです。ただ、あそこは、鉄砲だとか、ガトリング砲とかを提供しただけで、薩摩長州からすると、「武器だけ出せばいい、おまえのところは」と、こういうレベルのところなんです。ところが、ここは頭がいいのがいっぱいいた。大隈さんもそうですしね、一番は、殺されちゃった法務大臣江藤新平、そういう人が出たんです。それで反発を受けて、なかなか決まらなかったんですね。長崎に置いてみたり、福岡のほうにいてみたり、可哀そうにね。

鳥取県は、初めは島根県だった。鳥取藩というのは32万石で、松江は18万石。それで鳥取藩の侍が怒っちゃった。なんであんなところの、俺らが下になるんだって。だから、今度、県央都市をつくる時はよく考えてください。こういうことをよく知っていないと、うかつに言うと、プライドを傷つけますから。プライドを傷つけられたのが、福井もそうだし、鳥取もそうだし、富山もそう。富山はようやく前田さんから逃れられたと思ったら、また前田かと。一時期、あそこは石川県だったんですよ。

その次の藩は、福島県福島市なんです。秋田県秋田市とかあるんですが、これは、実際の名前はもう、明治維新になったときは藩名が変わっちゃっていたんです。

さあ問題は、朝敵側。なんで水戸が朝敵のところに入っているか。水戸は、だって一番尊王攘夷の親分だったでしょう。だけどあそこはね、内部分裂でけんかばかりしてね、こういうのを決めるときにも全然リー

ダーがいなかったんですよ。

あとの藩は全部、薩長に齒向かった。前橋は朝敵じゃなかったですけど、朝敵並みだね。本当の朝敵っていうのは、松山とか、高松とかね、あそこはもう完全に朝敵。それで、あとはもうみんな城下町。城下町はあるんだけど、城下町が県庁所在地にならないで、それ以外のところがなつたところなんで、名前がたまたま同じなんですよね。隣の長野県なんか、その例ですね。善光寺の門前町ですから。そういうところは無難にみんな認めてくれるんですよ。

決定的な朝敵は姫路、小田原、彦根、忍。これは残念ながら、全く名前が残らなかった。

## 8 全国的にも珍しい双子都市

最後に県央都市をやっていくのに、やっぱり中心は前橋だと思うんです。ところが前橋は江戸時代の終わりから明治にかけて、なかなかリーダーシップが取れなかった。やっぱり前橋藩は17万石ですから、彦根の35万石、会津の23万石に次いで、大きいんですよ。だけど飛地があって、領地が分かれていた。これは群馬県内にある飛び地。今度合併する前の、平成の合併前の方がわかりがいいので、そのまちの名前で区別してありますけど、こんなに分かれているんですよ。笠懸、大泉、千代田町、明和村、板倉。板倉に590石なんかやらないでね、玉村との間あたりにくればばいいのに。で、対照的なのが高崎。高崎は、合併する前の区分でこれしかないんです、群馬県の中で石高は5万6千石。前橋は少し地域を広げて6万3千石。昔の、この辺、本当に本拠地。同じぐらいでしょう、高崎と。だから、こういう仕組みになっているから、なかなかまちのまとまりは、その後の明治、昭和の役所の方々が、なかなかうまくいかなかったんでしょうね。

**(表3「前橋藩の上野国市町村別石高」、表4「上野国内高崎藩領市町村別石高」参照)**

それからもう一つ、全国各県の1番と2番の都市をピックアップ(表5「各県の人口1番と2番の市」参照)したんですが、1番と2番の都市が、大体の県では離れているんですよ。例えば、鹿児島は中心街に人がいっぱいいるし、まちはきれい。で、帰りに宮崎空港から飛行機に乗るので、まちを出たら、「え、こんなところに高速道路をつくる必要があるのか」というようなところで、全くの過疎ですよ。鹿児島、あとその他大勢。で、九州を全部考えると、九州の人に聞くと、福岡とその他大勢。もうほとんど福岡なんです。それぐらい福岡が凄い。非常にかわいそうなのが宮崎とかね、同じ九州でもね、全く寂しい。そう言うと怒られるけど、それでも40万人ぐらいはいるんですよ。

1番と2番が拮抗しているのが、前橋・高崎、奈良・郡山、静岡・浜松、水戸・つくば、松江・出雲、青森・八戸。だけど、1番と2番が拮抗して、なおかつ隣り合っているというのは、前橋・高崎のほかは、奈良と郡山だけです。あとは、浜松・静岡はもう、もともと遠江国と駿河国ですから、全然違います。茨城の水戸とつくばは50キロぐらい離れているんですよ。青森と八戸も95キロぐらい離れていますから。だから、高崎・前橋と、奈良・郡山、これが隣り合っている双子都市なんです。

まず奈良県は、行ってみたら、もう全然性格が違いますね。大和郡山っていうのは城下町で、いい町ですよ。金魚が有名ですけど、昔のものがいっぱい残っていて、品がいい。歴史文化もあるし、本当にまちの建物も非常にきれい。鉄筋とか、そういうのがきれいなんじゃないで、木造できれいなのが並んでいます。奈良は奈良で、寺社のまちで、もう全然違う。これは、全然一緒にならないで、2ついてもいいと思うんですけど、高崎と前橋は元をたどれば両方城下町で、似たような生い立ちをしているわけですから。それで、市役所と市役所の間が11キロぐらいだと思うんですけど、もう隣ですから、離れていないところは、もうすぐ隣が前橋市だし、高崎市なんですけど。これは全国で本当に珍しいですよ。

これが、もしかすると一緒にならない。昔の楯取さんがどうかこうなんていうのは、私なんかは何とも思わ

ないですものね。初めから前橋がなればいいんだから。それを楫取さんが高崎にするって言ったのがよくないので、言わなきゃもう、初めから前橋って、それで「はい、わかりました」っていうので、群馬県人だからそういうのでよかったんだけど。これが拮抗してそのままきた。これが、皆さん方がお考えになる一番の悩みなんじゃないかなと思います。

## 9 県央都市の市町村名

最後に、市町村名の成り立ち、そんな話は全然しませんでしたけど、成り立ちっていうより、どうなっていたかということが重要です。ただ名前だけ最後にお話しすると、今お集りの5市町村。一番由緒があるのは玉村なんです。現時点では、規模的には一番小っちゃいんですけど、玉村は「玉村御厨」っていう中央の重要拠点地。納税させる方としてという面があるかもしれないですけどね。

その次に名前が出てきているのは藤岡。平井城を中心に一時期は「京都か、鎌倉か、平井か」って言われた時代がありますから。そのときに、平井城を攻めるところの文章の中に藤岡って名前が出てくるんですね。

その次に古いのが伊勢崎。ただし、伊勢先で「先」っていう字が違いますけど、出てきます。

高崎に至っては、たかだか400年。1598年に何にもないところへお城と城下をつくって、高崎という名前にしてくれたので、今、私なんかがいるんですけど。

前橋はもっと後。これはよくわからない。たぶんこのころだろうと言われてはいるんですが、それまで言っていた前橋っていう名前は厩橋、変化してきて前橋になったって言う人が多いですけど、本当のところはよくわかりません。馬が群馬県では重要なわけですから、厩っていう字が嫌だっていうことはなかったと思うんですけど。そういうのが多いんですよ、名前を変えるにはね。この字が嫌だと。高崎もそういうのが、そういう地名がありますけど。古い順に言うところ。なんか威張っている順だと、この逆でしょう。で、お名前を決めるときには、よく、相手の立場をよくお考えいただいてやったほうがいいと思いますよ。決して、ここが一緒になっても、みどり市とか、そういうふうにはならないと思うんですけど、研究者とすると、ああいう名前は勘弁してもらいたいよね。

最後に非常に失礼なことを言いましたけど、要は、県央のところ非常にいろいろな支配者がいたために、それを引きずっちゃったのがよくないんですよ。それで、こういうDNAがありますから。みんな集まる場合は、前橋市とか、高崎市とかっていうんじゃなくて、なんとか町です、小っちゃいところが自分の意識ですから、そういうものを、あまり小さいところにとらわれちゃいけないけど、どっかの隅に思っただいて、で、仲よく研究していただいて、一極集中がいいかどうかよくわかりませんが、前橋と高崎で人口71万、藤岡と玉村と伊勢崎になると、100万近くになるんですかね。そういうことをよく考えていただいてやったほうがいいんじゃないかと思います。ちょうど時間になりました。ご清聴、ありがとうございました。

なぜ地域間のセクト意識が生れたのか？

高崎史志の会 堤 克政

1 はじめに

2 江戸時代の支配状況

幕領(御料所) 大名領(御領分) 旗本領(御知行所) 寺社領

城付領 飛地

相給

(1) 領主が1大名の国

譜代大名 家門 外様大名

加賀・能登(石川) 越中(富山) 薩摩・大隅(鹿児島) 筑前(福岡)

安芸(広島) 備前(岡山) 阿波(徳島) 土佐(高知)

長門・周防(山口) 因幡・伯耆(鳥取)

陸前(宮城) 肥前(佐賀) 肥後(熊本) 羽後(秋田) 越前(福井)

(2) 領主が分散していた国

譜代大名や旗本の領地

支配者が分散

1 位下総国(茨城県南部・千葉県北部)、2 位下野国(栃木県)、4 位常陸国(現城県)、

5 位上野国(上州・群馬県)

本拠地が他国の大名藩領

3 上州の領主状況

(1) 上州以外の支配者

本拠地 9 藩 他国本拠地の 10 藩 合計 19 藩

上州に本拠地 44% 幕領 41% 旗本領 12% 他国に本拠地 3%

(2) 飛地の存在

幕末に遠方藩の飛地 10 藩

関東地方の武蔵国岩槻・武蔵国半原・下野国佐野・上総国一宮・上総国請西

近畿地方の山城国淀・丹波国峰山 東海地方の三河国西端

東北地方の出羽国松嶺・磐城国泉

(3) 相給状況

年貢は村単位

一つの村に対し複数の領主 「相給」

単独村 856 村(幕府単独領 392 村と藩単独領 464 村) 相給 334 村(約 3 割)

地域に幕領、大名領、旗本領が混在

一つの村でも領主が複数存在

#### (4) 藩主の交替・領主の変動

「転封」(大名の異動)

転封なし: 七日市藩

復活後変動なし: 小幡、吉井、伊勢崎藩

転封藩: 前橋・高崎・館林・沼田・安中藩

県央地域を中心に頻繁な領主変動

#### 4 中心藩が現れなかった大きな原因

リーダー藩の可能性 館林藩と前橋藩

##### (1) 館林藩の解体

徳川綱吉 三代将軍家光 長兄家綱が四代将軍 次兄綱豊と三男綱吉 15 万石

館林に 25 万石 所領の半分は下野国の梁田・足利・安蘇の 3 郡

御三家の水戸に次ぐ上州を代表する藩

綱吉が五代将軍 襲封した徳松夭逝 廃藩

上野領地 158 村約 12 万 9 千石

→幕領 27 村、旗本領 108 村・386 家の相給、幕領と旗本領の相給 23 村 136 家の相給

旗本領 108 村→単独は 37 村 71 村が相給

邑楽郡北大島村(現館林市大島町)4,667 石は 23 給

##### (2) 前橋藩領の分散

ア 酒井家の所領拡散と転出

初代重忠: 1601 年入封 3 万 3 千石

二代忠世: 二代・三代将軍の側近 老中 12 万 2500 石

四代忠清: 大老 四代将軍のもと辣腕を振り「下馬将軍」 15 万石

九代忠恭: 老中首座 姫路へ転封

イ 結城松平家の激しい所領分散

松平(結城)朝矩 徳川家康の次男結城秀康系の家門「引越し大名」

初代直基: 勝山藩(福井県勝山市)—大野藩(福井県大野市)—山形藩—姫路藩

二代直矩: 姫路藩—村上藩(新潟県村上市)—姫路藩—日田藩(大分県日田市)—山形藩

—陸奥白河藩(福島県白河市)…転封 5 回

三代基矩: 白河藩

四代明矩: 白河藩—姫路藩

五代朝矩: 姫路藩—上野前橋藩—武蔵川越

前橋入封後 19 年で城の崩壊を理由に川越への移城陣屋支配の飛地

六代～十代: 川越藩

十一代直克: 前橋城再築を願い承認 領内生糸商人らの献金

#### 5 群馬県中央部の藩領模様

領主が入乱れていた

- ・ 那波郡 伊勢崎・前橋・高崎・武蔵岩槻飛地と幕領・旗本領

- ・ 佐位郡 伊勢崎 上総一宮藩飛地と幕領・旗本領
- ・ 勢多郡北東部～南部 前橋藩、山城淀・下野佐野・出羽松嶺・磐城泉・下野佐野の飛地と幕領・旗本領
- ・ 群馬郡東南部 高崎・前橋、沼田・安中・吉井藩と丹波峯山藩の飛地
- ・ 緑野郡 幕領、高崎・下野佐野の飛地と旗本領

## 6 幻の高崎県と県庁前橋へ

理由分らず 高崎県→群馬県

下村善太郎

楯取素彦

## 7 都名が県名にならず

城下町か それ以外か

明治政府に忠勤・朝廷支持派

朝敵・態度曖昧

## 8 全国的にも珍しい双子都市

上位 2 市の人口が拮抗

前橋・高崎 奈良・郡山 静岡・浜松 水戸・つくば 松江・出雲 青森・八戸

## 9 県央部の市町村名

玉村……中世の「玉村御厨」から

藤岡……永享 10 年(1439)の足利持氏の平井城攻めに登場

伊勢崎…戦国期に「伊勢先」が登場

高崎……慶長 3 年(1598)井伊直政が箕輪から移城した時に命名

前橋……慶安初年(1648)には酒井重忠が「厩橋城」を「前橋城」と改称したと

参考資料；

[「前橋藩の領地の推移」](#)

[「前橋市東部の領主の変遷」](#)

[「玉村町・伊勢崎市・境町の領主の変遷」](#)

[「藤岡市・吉井町の領主の変遷」](#)